

## 2006年度 第7回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2006年11月14日(火) 午後7時15分～9時  
開催場所：西東京ボランティア・市民活動センター活動室  
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、柳澤正樹、山下恭子  
<以上7名、敬称略、あいうえお順>  
欠席委員：安岡厚子 <以上1名、敬称略、あいうえお順>  
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)  
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)、実習生1名

### 配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(10月)  
資料 2：コーディネート状況等月次報告  
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(11月)  
資料 4：2006年度第5回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>  
資料 5：2006年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>  
資料 6：災害時のシステムづくり専門委員会委員候補者  
資料 7：リサイクル手作り品の委託販売実施(案)  
資料 8：2007年度ボランティア・市民活動推進事業予算  
資料 9：2007年度ボランティア・市民活動推進事業費財源内訳  
資料 10：広報活動の現状とあり方

委員長：市民まつり、武蔵野大学摩耶祭への参加、お疲れさまでした。後ほど詳細について報告をお願いしたい。また今日は、実習生が参加をしているので自己紹介してほしい。

実習生自己紹介(記載省略)

委員長：それでは、業務の報告から始める。

## 1. 報 告 事 項

### (1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局より、市民まつり協力のお礼を述べる。つづいて資料1、2、3に基づき10月期の業務、コーディネート状況の報告および11月期の業務予定の報告が行われた。  
つづいて11月11日、12日に行われた市民まつりへの参加状況および12月17日に行う予定の軒下ふれあいバザーについての報告がある。

委員長：事務局からの報告に対して質問等はあるか。

委員長：摩耶祭の参加者の状況はどうだったのだろうか。

委員：例年より参加数は多かったと聞いている。いろいろな人に参加をしていただいたようだ。

委員長：街なかサロンにここの状況はどうか。

事務局：先日、伏見通り商店会の役員の方2名と打ち合わせを行った。にここの運営にあたって市の産業振興課からの補助金が打ち切れ、それに替わってふれあいのまちづくり事業の拠点としての補助金に移行するにともない、ふれあいのまちづくり事業の拠点と今後のにここの運営の目的が合致するかどうかを話し合ったところ、ふれあいのまちづくり事業と同様の考え方を商店会の役員はもっていたので、打ち合わせの時点ではふれあいのまちづくり事業の拠点として存続させることにした。

委員：コーディネート状況報告の中で、新規登録者がいるにもかかわらずボランティア登録者数が減少しているのはなぜか。

事務局：5月以降、ボランティア登録者の登録継続の意思確認を行ったところ、登録を取り消す人がいるために、新規登録者がいても、総数では減少している。

委員：マックスバリュでのバザーを行うのはいつか。

委員長：12月17日(日)、午前10時から行う予定にしている。

委員：バザーにはボランティア・市民活動センターだけが参加するのか。

事務局：マックスバリュが行っている黄色いレシートキャンペーンに登録している団体を中心に出店の声かけをし、またボランティアグループまりもにも呼びかけを行った。

委員長：ボランティア・市民活動センターが企業の協力を得て行う事業では、初めてということになる。

委員：黄色いレシートキャンペーンに参加している団体はすでに何度か店舗前に出店をしてもらっている。

委員長：市民まつりでの寄付金の額はどのくらいだったのか。

事務局：募金箱に最初からお金が入っていたので、市民まつりの時にいくら募金箱へ寄付してくれたのかは把握できていない。

委員長：市民まつりに参加した運営委員は参加した感想を言ってほしい。

委員：わたあめは大変だったのではないだろうか。一つ気になったのは、ボランティア・市民活動センターがどこにあるか、と聞かれた時に具体的に答えられるようにする必要があると感じた。

委員長：市民まつりに参加し収益をあげることができたことはよかった。今年は、ボランティア・市民活動センターをPRする方法としてチラシ配布だけだったが、このような機会を使ってどのようにボランティア・市民活動センターのPRをするか、今後検討したい。

以上をもって10月期の業務報告および11月期の事業予定の報告を終了する。

## (2).災害時のシステムづくり専門委員会活動報告

事務局より、資料4に基づき第5回災害時のシステムづくり専門委員会(以下、「災害専門委員会」と表記)の協議内容について報告がある。

委員長：企業では災害時の地域への協力体制をどのようにしているのか教えてほしい。

委員：各店舗共通の取り組みは特に定められていないが、個別には地域に対して協力をしている店舗もあるようだ。

他に質問、意見なく、以上で災害専門委員会の活動報告を終了する。

## (3).理事会報告

委員長：10月30日に理事会が開催され、前回運営委員会で審議したノートパソコンを貸し出すための規則改正が承認され、他にボランティア・市民活動センターの事業内容についての報告を行った。ボランティア・市民活動センターに関係することは以上である。

理事会報告に対し、質問、意見なく終了する。

## 2. 審 議 事 項

### (1). 2006年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：修正箇所等あるか。

修正、追加等意見なく第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

## (2). 災害時のシステムづくり専門委員会委員の選出について

事務局より資料6に基づき、災害時のシステムづくり専門委員会委員候補者の説明がある。

委員：学校の都合などにより委員としての任期途中で委員をやめるなどの心配はないのか。

事務局：現在のところ委員会をいつまで設置しておくかということが決まっていないので、現段階では他の委員同様2007年3月31日までという任期での委員就任の意思を確認している。

委員長：専門委員会での他の委員の異動はあるか。

事務局：現在のところ変更はない。

委員候補者に対する異議を唱える発言なく、災害時のシステムづくり専門委員会委員について、候補者を委員とすることを全員一致で承認した。

## (3). リサイクル手作り品の委託販売について

資料7に基づき、リサイクル手作り品の委託販売について事務局より説明、提案される。

委員：販売するものにどのような品物があるのか。

事務局：ティッシュペーパーのカバーや、小袋、自転車のかごカバーなどがある。

委員：委託販売をするにあたって、品物を置くワゴンを購入するとのことだが、あまりお金をかけないほうが良いのではないか。

事務局：当初はワゴンを購入する考えだったが、使用しなくなったものが社会福祉協議会運営の施設にあるようなので、それを譲り受けることを考えている。

委員長：今後のことを考えると、どのようなルールで委託販売をするのかを決めて、簡単な文書を取り交わす必要があるのではないか。

事務局：覚書のようなものを取り交わしたい。

リサイクル手作り品の委託販売の実施について、反対意見なく全員一致で承認される。

## (4). 2007年度事業実施に伴う西東京市への補助金の申請について

事務局より、資料8、9に基づき、自己財源を充当することに伴い西東京市への補助金申請額について、第6回運営委員会にて承認を得た結果に変更を加えたい旨の説明および提案がある。

委員長：市からの補助金額が減らされるということか。

事務局：特にそのようなことを言われているわけではないが、来年度の補助金額が今年度より増えることはないと思う。

委員：自己財源の額を増やすということか。

事務局：そのとおり。

異議なく全員一致で、2007年度事業実施に伴う西東京市への補助金申請額の変更が承認される。

## (5). 広報のあり方について

事務局より、資料10に基づき広報活動の現状の説明があるとともに、今後の広報のあり方につい

ての協議をお願いしたい旨提案がある。

委員長：広報に関してどのような強み、弱みがあるのか、職員の考えを言ってほしい。

事務局：ぼらんていあ倶楽部は年6回の定期的な安定した発行ができていないのではないかと考える。どのような情報を掲載していくのか、地域の情報をどうやって集めて掲載していくかが課題ではないかと思う。ホームページについては、前回運営委員会で資料提供したとおり、アクセス数が意外とあるので、これをどのように活用するのが課題となっている。

事務局：ボランティア・市民活動センターと言うとチラシを受け取ってもらいにくい。何らかの工夫が必要だと感じている。

事務局：ぼらんていあ倶楽部は年6回の発行なので、タイムリーな記事の掲載ができていない。

事務局：高齢者も多いので、ホームページではなく紙媒体での情報提供も必要だと思う。

委員長：運営委員から何か意見はあるか。

委員：対象ごとに広報媒体を分けたほうがよいのか、あるいは、媒体をミックスさせて活用していくことも必要ではないか。メディアをどのように位置づけるのかをデザインすることが必要だと思う。

委員長：ニーズをもつ人に、その人のニーズに応える情報を、どのように載せるかを考える必要がある。また、対象者がどこにいるのかを考え、そこへ的確に広報していくことが大切。広報のためのボランティアをボランティア・市民活動センターが募集すればよいのではないか。

委員：J：COMの番組でボランティア・市民活動センターの宣伝を流してはどうか。また、イベントがある時に取材をしてもらってはどうか。

委員長：東興通信へも取材してもらおうように働きかけてはどうか。

委員：ぼらんていあ倶楽部を毎月発行にはできないか。

事務局：毎月発行することもよいのだが、できれば全世帯に配布をしたい。

委員：ぼらんていあ倶楽部にQRコードを刷り込み、携帯電話からそのぼらんていあ倶楽部の情報を得られるようにしてはどうか。

委員長：インターネット関係で意見はあるか。職員の顔が見えるようなページを作るとよい。他団体でもスタッフのページはよく見られている。また、ブログにイベント情報を掲載して、新しい情報を掲載していくようにしてはどうか。固定的な情報はホームページに掲載し、情報の性格によって使い分けることも必要。

委員：ブログの書き換えは簡単だと聞いている。

委員長：mixiなどの活用もよいのではないか。

委員：リンク集を充実させて使えるようにすると他のホームページの閲覧者のアクセスが流れてくるのではないだろうか。一つのテーマに特化したコンテンツをつくる必要があるのではないか。

委員長：市民活動に関する様々な情報をボランティア・市民活動センターに集中させることが必要だと思う。

委員：全国各地のNPOに流れるメーリングリストを使って西東京ボランティア・市民活動センターの情報を流すこともどんどん行っていくとよい。

委員長：西東京ボランティア・市民活動センターを露出させていくことが必要だと思う。

委員長：いろいろな意見が出されたので、これらの意見を事務局で検討し、できることから実現させていってほしい。それでは、この議題についてはこれで終了する。

## (6).その他

事務局より、12月3日(日)に開催される西東京市社会福祉協議会地域福祉推進係主催イベントの地域交流会について報告がある。

委員長：来年1月には運営委員の新年会を予定したいと思っている。では、本日の運営委員会はこれで終了する。

以上をもって、2006年度第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。